

## 森林資源の有効活用による担い手支援について

### 1 テーマの趣旨・目的

高知県の嶺北地域は、県中央北部の吉野川上流域に位置し、森林率は約89%であり、民有林人工林率も約76%と高く、古くから林業が盛んな地域です。

近年では当地域においても高齢化などにより林業労働力は減少しているものの、林業や嶺北の自然環境での生活に憧れを持った方が地域おこし協力隊の林業分野に応募されて3年間活動し、その多くが任期後に当地域に定着しています。

こうした中、当地域では、地域の課題解決の受け皿となる高知県独自の仕組みである「集落活動センター」が相次いで設置され林業活動を開始するなど、森林組合や民間事業者とは一線を画す新たな組織が増えてきており、一部の集落活動センターでは地域おこし協力隊の任期後に運営に関わり、現役の地域おこし協力隊を対象とした研修の受け入れや任期後の受け入れ先になるべく頑張っています。

これら労働力の確保や地域おこし協力隊任期後の定住率向上のために、地域で走り出して間もない「集落活動センター地蔵寺」（以下「地蔵寺」という。）をモデルとして、地域の森林に自生している特用林産物の生産に関する支援を行うことにより、地蔵寺の林業分野での所得向上を目指すこととしました。

### 2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

#### (1) 現状

嶺北管内の林業労働者数は令和5年度時点で151人となっており、15年前と比べて2割ほど減少し

ています。こうした減少傾向は今後も続いていくと予想されるため、この解決策として、地域おこし協力隊や県外移住者などの新しく多様な人材の育成・確保に狙いを定めることとしました。

については、嶺北林業振興事務所（以下「当事務所」という。）が有するウラジロガシの振興のノウハウを、地域おこし協力隊OBがコアメンバーである地蔵寺に落とし込み、地蔵寺の雇用の確保と所得の向上を目指しました。

#### (2) 取組内容

##### ①個人から組織化による取組の推進

嶺北地域でのウラジロガシ生産は、平成30年度に1名の生産者の協力によりスタートし、徐々に土佐町内に広がっていきました。地蔵寺の設立前は地蔵寺集落内で数名の方がグループでウラジロガシの出荷を行っており、当事務所としても地域住民を対象に「ウラジロガシ採取マニュアル」を配布して出荷までの方法等について周知するなど支援を行ってきました。

その結果、令和4年度に地蔵寺が設立された後には生産者も増え、個人グループから組織出荷へと移行することができました。組織化したことによりこれまで当事務所が担ってきた依頼元との注文や請求事務などについて徐々に組織で行えるように支援しました。

組織化でのメリットとして、事前に出荷日を生産者に周知することで、少量の出荷でも複数人出荷を取りまとめることにより一定量のまとまりを持って出荷出来ることや、事務手数料収入の徴収が可能となり、その結果、地蔵寺の組合員に向けて、種々の調査や出荷時の労務費の支給が可能となりました。

##### ②採取、出荷方法の研修支援

徐々にウラジロガシ出荷に関わる人数が増えてき

たことから、出荷時に併せて採取方法や出荷方法などに関する研修会を実施しました。参加者に対しては、実際に積み込みなどの体験や、出荷時期、荷造り方法について指導しました。

### ③資源量の調査及び認定木の調査支援

ウラジログシの出荷については類似の植物があることから、買取業者による鑑定が必要となっており、当事務所では鑑定前にウラジログシの資源量の聞き取りや、現地でドローンを活用して確認を行うなど、鑑定当日に円滑な調査が行えるよう努めました。

また、認定木調査時には生産者とともに現地案内に同行しました。

### ④持続可能な生産に向けた取組

これまでの山採りに加え、新たに苗木の植栽や育苗等の支援を行い、将来はウラジログシの一大生産地となるよう取組を進めています。

苗木については買取業者と当事務所で調整を行い、買取業者から生産者への配布を実現したほか、生産者自らがドングリを植えることを提案するなど持続可能な生産を目指した取組を加速させています。

## (3) 成果

上記の取組により得られた成果は以下のとおりです。

※①～③は令和4～6年度の累計

①認定木（金の成る木）の発掘→434本

②出荷量（生重量）→8,170kg

③生産人口の拡大

地蔵寺設立前5人→設立後21人

④生産人口拡大への意識の醸成

（山林取得によるウラジログシ生産の開始など）

⑤一部単独取引の開始

（当事務所の支援によらない取引）

## (4) 課題

①地蔵寺の完全自立に向けた支援のあり方

（行政の役割の明確化）

## 3 今後取組むべき内容

### ①検討方向

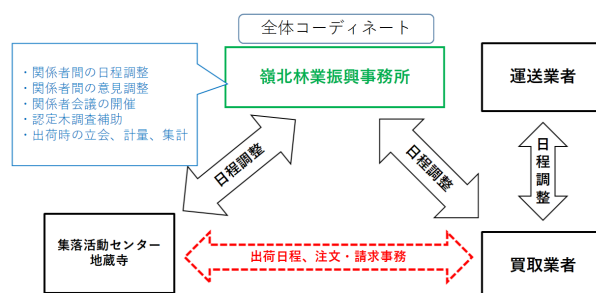
ウラジログシ生産の取組により得た仕組みを新たな特用林産物の掘り起こしへ応用し、森林資源のさらなる有効活用を図るとともに、それに携わる担い手人口の拡大を目指していきます。

### ②理由

新たな特用林産物（オウレン）は、漢方薬の原料として需要が一定見込まれていることや、比較的生産コストが安価であることから、今後、高収入が期待できます。

### ③期待する効果

- ・地域に根ざした林業労働力の継続的な確保
- ・農業従事者の閑散期対策



「ウラジログシ出荷状況」